

うさぎの耳

聴くことは社会貢献の第一歩！

第53号 (2021年5月1日)

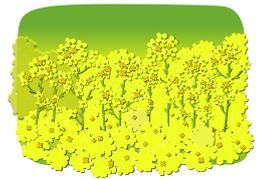
福津市社会福祉協議会内

◇ 社協、福津市、包括センター等からのお知らせ

- 1 社協主催の3年度ボランティア団体情報交換会が、5月17日(月)予定されていましたが、公共施設閉会のため中止となりました。

◇ 4月の定例会の話題

- 1 ふれあいコール関連
 - ① 4月の件数は14件でした。5月は、11日現在5件です。
 - ② 新年度の協定書は、署名捺印し4月13日提出しました。
 - ③ 新しいチラシが出来配布されました。
- 2 癒しの傾聴カフェ、5月7日(金)6名参加しました。6月は4日(金)です。
- 3 定例会は、研修会、総会に引き続いて行いました。
- 4 本年度の助成金申請(30,000円)を行いました(9日)。
- 5 休キャンペーン・ギフト券(6,000円)受け取りました(15日)。



◇ 会員の広場

徒然なるままに

白川 善教 会員

グラスに半分残った水を見て「もう半分しかない」と思うのは悲観主義者。「まだ半分もある」と思うのは楽観主義者。と言う有名は性格判断法あります。これは英語では「Glass Half Empty or Half Full?」という定番の言い回しになっているようです。

ヘビースモーカーが「俺は絶対大丈夫。肺ガンにならない」と言い、宝くじを買う人は「私は運が良いから当たるかも」など。皆自分に都合の良いように考えて行動しては無残に夢が絶たれたりするものです。でも先々のことを想定して、余計な心配をするよりも、このほうがいいのかも。先々のことは全く分かりません。ケセラセラです。

因みに私は?と言えば、先天性視力障害もあり、劣等意識を持ちながら前者「もう半分しかない」の心境で今日まで過ごして参りました。～楽観主義者でありたいと願いつつも～

「今日という日は昨日の結果。未来は今日の積み重ね」と言います。私も本年8月を以て八十路坂の第一歩を踏み出します。振り返れば娘に後押しされ社会福祉協議会を訪ね、当『傾聴ボランティア』に入会させて頂いたのが2016年10月でした。80歳にまでは頑張ってみようという当初の思いでした。

今日という日を生かされて生きている事に感謝し大事に、感情にとらわれる事なく、楽しく明るく、前向きに、笑って生きて行きたく願っています。最後に私の尊敬する亡き師の短歌を紹介します。毎朝「宮地嶽神社」までのウォーキングの折に口ずさんでいる歌です。

“今日在りて 明日を知り得ぬ人のいのち 今日に悔いなき已とあらん”





◇ 会からのお知らせ

- 1 ふれあいコールは、緊急事態宣言下の少なくとも31日まで、実施場所を市庁舎3階第2委員会室で行います。その日の各担当者は名札をつけて、12時30分頃までに市庁舎ロビーに来て下さい。
- 2 5月定例会（20日（木））は、公共施設閉鎖のため中止します。
- 3 新茶（うれしの茶）を、1袋650円で販売しています。利益は、ほほえみの会計に寄付します。ご協力下さい。申込みは添田会員（0940-52-1146, 080-5219-6164）までお願いします。

研修会『「苦しい」と「死にたいに」とどう向き合うか』を計画して

皆さんは今回の研修会如何だったでしょうか。以前計画した同じテーマ「ゲートキーパー」に関する2回目でしたので、「またか!」と感じられた方も居られると思いましたが、最後の質問では多くの意見が出され関心の深さを知りホッとしました。

自分は「苦しい」とか「死にたい」など自殺を考えたことなど全く無縁の存在だ、子育てなんて（特に男性の場合）全く預かり知ら無いことだなど専門的分野以外の傾聴活動について消極的に捉えるか或いは自分の視野が広がった、守備範囲が広がり結構なことだと前向きに捉えるか、その人の立場、人生経験によって人それぞれでしょう。

ほほえみが「傾聴ボランティア」と標榜している以上、第三者は我々がどの分野に活動しているかは知りませんので、傾聴に関することであればどんなことでも期待されていると思われまます。ほほえみとしても普段からそれに対応しておく必要があります。

そのためには、意識して日々新聞などに目を通して話題を広く収集しておくことが必要でしょう。会話中の少しのヒントから、集めていた材料を元に話が広がり不得意分野だったことも盛り上がり、話し上手の自分を発見することになるでしょう。

どのような分野のお話であり、相手を思いやり（その人の立場になって）、私心無くその場の話題について会話を楽しむという姿勢を以て臨めばお互いの誠心な気持ちは伝わるのではないのでしょうか。そのためには、自分に合った参考書を数冊見付け熟読玩味して、そこから自分なりの傾聴のやり方・基準を持っておくことも大事です。

現に相談業務をやっておられる木藤孝裕先生が最後に述べておられるように、業務の成否は相談を受ける側の誠心誠意に係っているとの言葉は、我々の傾聴活動においても大切にしたいと思っています。

4月の研修会所見（参考）

- ・若い人から大人まで範囲が広がって対応が難しくなったようだ。
- ・子供包括支援センターのことを知りたい→資料を準備する。
- ・対象が広くなり、このコールの案内をどう進めるか。
- ・死にたい、喪失感を持った人、生きることが辛い人には、励ますことなくただ寄り添って聞くことが大事。
- ・ゲートキーパーのことが分かり、傾聴を別の角度から聞けたようだ。
- ・いのちの電話の話を聴きたい。子供傾聴の講習会も欲しい。
- ・講師の最後言葉が良かった。
- ・傾聴は奥深く、考えることが大事。

